

語りと音楽の会 ともだちや 二〇二三 春の公演

語り、リードオルガンと笙のための

水仙月の四日

宮澤賢治 作
小内將人 作曲

雪おんな

語り、リードオルガンとガラスの打楽器のための

小泉八雲 作

舟木裕 完訳

小内將人 作曲

2023 4/1(土)

14:30 開場/15:00 開演

■場所/小金井宮地楽器ホール(小ホール)

■料金/全自由席 前売り 2,500 円 当日 2,800 円(ご予約も承ります)

※この公演には小学校高学年と中学生に無料ご招待があります。

詳しくは学校配布のポスターやチラシをご覧ください。未就学児不可。

■主催/語りと音楽の会 ともだちや

■後援/小金井市 小金井市教育委員会

■お問い合わせ/こうち 090-9972-0474

masatokouchi@me.com



ごあいさつ

語りと音楽の会ともだちや 2023 年春の公演を開催いたします。今回の公演では宮澤賢治の「水仙月の四日」と小泉八雲の「雪おんな」というふたつの物語を取り上げます。

「水仙月の四日」は昨年ゆきばの5月に初演したお話です。雪婆ゆきおいのご、雪狼ゆきわらす、雪童子という雪の妖精たちの生き生きとした会話と、真っ白な雪景色の中に人間の子供がまとう赤いケットの色彩が鮮やかな印象を残す詩情溢れる幻想的な景色は、賢治が故郷の岩手の原野を散策しながらイメージした世界そのままの景色だと思えます。。これを雅楽の楽器である笙と、同じ発音原理を持つ西洋の楽器である足踏みのリードオルガンによって墨絵のような濃淡の音楽で描きます。幻想的な音の風景をお楽しみ下さい。

小泉八雲の「雪おんな」は2010年の2月に初演したものです。吹雪の晩に巳之吉が見た白い女は何か?そして偶然出会った旅の娘とは誰か?このお話は東京都の青梅市に伝わる伝承を八雲が聞き、美しい筆致で物語にしたものです。雪おんなは雪深い地方のお話ではなく、東京の奥多摩の話だったのです。この冷たい物語を表すのに、ガラスで作った打楽器の音色を使おうと思いました。吊り下げた何枚ものガラスの板と限られた音階のガラスのボウルが、オルガンの音色と共に不思議な世界を立体的に描きます。朗読と共に音楽で描く情景の世界は、きっと新しい感動をもたらすことでしょう。文学と音楽の織りなす物語の世界をお楽しみいただけますように、関係者一同心よりご来場をお待ち申し上げます。

■出演 語りと音楽の会 ともだちや



代表・語り
たに かずこ



リードオルガン
有留 真理



作曲
小内 将人とガラスの打楽器



雪童子(ゆきわらす)



打楽器 (ガラスの打楽器演奏)
會田 瑞樹(ゲスト)



笙
村岡 健一郎(ゲスト)



赤い毛布(ケット)をまとった子供



雪狼



駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。